

10月4日(日)深夜

HBC とゆかりの深い劇作家・倉本聰さんをしのび HBC テレビで追悼番組を放送



北海道放送株式会社(以下、HBC)は、日本を代表する劇作家・倉本聰さんの訃報に接し、心よりお悔やみ申し上げますとともに、倉本聰さんのご功績を偲び、2025年8月に放送いたしましたドキュメンタリー番組『北海道 fact 倉本聰と戦争…そしてドラマへ』に編集を加え、特別放送することを決定いたしました。なお、今回の放送は、新たに追悼コメントなどを加えた特別編集にてお届けいたします。

倉本聰さんには「東芝日曜劇場」を通じ数々の名作を手掛けていただき、テレビ史に刻まれる『幻の町』『ばんえい』『りんりん』など、HBCにとってもかけがえのない作品を数多く残していただきました。そして人気シリーズ『うちのホンカン』をはじめとする多彩なオリジナル作品を、ここ北海道の地から全国の皆様へ届けることができました。HBCの歴史において倉本聰さんとのご縁は、深く、強い結びつきだと感じております。

本番組は、戦後80年という節目に、倉本聰さんが経験された岡山での縁故疎開や戦時下の記憶、そして戦後をどう生き、その体験をどのようにドラマ表現へと昇華させていったのかを、ロングインタビューで語っていただいた貴重な記録です。倉本聰さんが遺されたメッセージを改めて皆様にお届けします。



代表作「北の国から」(台本)

■追悼番組 放送概要

【番組名】「追悼・倉本聰さん 北海道 fact 倉本聰と戦争…そしてドラマへ」

【日時】2026年10月4日(日)25:43～26:43※予定

【放送局】HBC北海道放送

【出演】倉本聰、岩城滉一 ほか

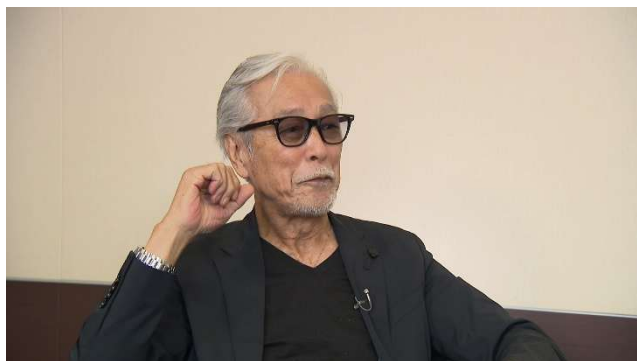
■主な番組内容・見どころ

日本を代表する脚本家、倉本聰さん。北海道・富良野に拠点を置き、その創作にける意欲は決して衰えることがありませんでした。数々の作品群の中で、人気シリーズ『北の国から』(フジテレビ)や、昭和のテレビドラマ史における傑作として知られる東芝日曜劇場『幻の町』(北海道放送)には、倉本さんが戦時下を過ごした疎開先での記憶や体験、家族との絆が色濃く反映されています。番組では戦後80年企画として、倉本聰さんにロングインタビューを行いました。

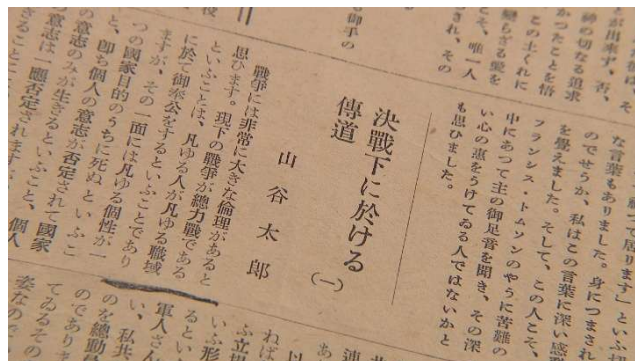
『北の国から』シリーズの登場人物で、特に人気が高い“北村草太”。名優・岩城滉一さんが演じた、純と蛍の成長に寄り添う“草太兄ちゃん”という役は、疎開先で倉本さんが出会った実際の人物から、ドラマという創作の世界に立ち上がったといえます。

また倉本さんは、戦時中に父親の山谷太郎さんが特別高等警察(＝特高)に連行され、厳しい取り調べを受けたエピソードも明らかにしました。クリスチャンだった父親が、教会の月報に寄せた記事の中で“戦争は罪悪である”などと記した一文が、問題視されたのです。

子どもたちを巻き込み、信仰の自由さえ許さず、監視と統制下に置いた“あの時代”一。脚本家、倉本聰さんへのインタビューは2時間近くに及びました。その言葉の一つ一つを辿ることで、普通の人々の日常が次々に奪い去られていった時代を浮かび上がらせます。



“草太兄ちゃん”を演じた岩城滉一さんへのインタビュー



父・山谷太郎さんが教会の月報に寄せた記事

■お問い合わせ HBC北海道放送 視聴者センター

TEL:011-232-5806(平日 10:00～17:30)



もっと世界が憧れる北海道を、実現する。